

楽しもう！ 『高島おばけ』との遭遇

柴田 進

北海道・東北蜃気楼研究会

小樽周辺で発生している上位蜃気楼は、地元で『高島おばけ』と呼ばれ、江戸時代末期から知られています。しかしながら、毎年、大きなものが数回発生するにもかかわらず、地元では観光資源としてさえ活用されていません。

これは、実にもったいない話で、市やその周辺地域の人々にとっても、実際に見てもらおうとかなり興味を引くはずです。と同時に、少なくとも新たな観光の目玉や地域振興の一つとして活用できるのではないのでしょうか。

今回、小樽周辺で撮影した『高島おばけ』の画像を静止画、動画を交えて、ご紹介します。さらに、1846年（弘化3年）に最初に『高島おばけ』を目撃し、記録に残した人物といわれる松浦武四郎よりも約120年程前に目撃した可能性のある人物をはじめ、没後100年を迎える榎本武揚、小樽から余市にかけて残っている遺跡・ストーンサークルと『高島おばけ』との関連性などにも言及します。

また、文学・美術との関わりや『高島おばけ』をPRするためのキャッチコピーなどもあわせてご紹介します。

そして、地元の方々をはじめ、全国の方々にも石狩湾上で発生する特異な名を持つ『高島おばけ』をより身近に感じ、見て知っていただくために、その発生時期、場所、条件やノウハウなどをお伝えする予定です。

皆様がこれらを知ることによって、ご自分の目で見るときの手助けとなるでしょう。特に、発生頻度が高い位置に近い札幌、小樽、余市を始め、石狩湾沿岸にお住まいの方々には、ぜひそこに足を運び、実際に見つけ、それを楽しんでいただきたいと思います。

さらに、その近くの小・中学校の生徒にとって、総合学習や自由研究などの題材に『高島おばけ』を取り上げることは、郷土やその自然を知る一つとして、いい選択となるのではないのでしょうか。

最後に、今回の発表が、理工系の方ばかりではなく、文系や芸術系の方などの目に留まればうれしく思います。

なぜなら『高島おばけ』は、昔から人々の感性を揺るがし、刺激するのに十分な何かを持っています。きっとこれらの方々が『高島おばけ』を見ると、理系の方以上に、創作活動やイメージーションなどに大きな影響を与えるはずです。

多くの方が、砂漠やオーロラを見て人生観が変わるように、『高島おばけ』にもその秘めた力があるような気がします。実際に見れば、きっとその不思議さに心奪われることでしょう。

さあ、これを機に、皆様が、『高島おばけ』を見つける物語が始まるのかもしれない。楽しい出会いがあることを祈っています！

右端に見えるトド岩の『高島おばけ』(=上位蜃気楼)



2008年4月9日撮影